

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	国際学部
大項目	4 教育研究組織
中項目	
小項目	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
要素	教育研究組織の編制原理 理念・目的との適合性 学術の進展や社会の要請との適合性 (KG1) 研究活動の状況
小項目	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価 (2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2010年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価			
		2010	2011	2012	2013
1. 毎年度、教授会にて教員研究組織が「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」と適合しているかについて懇談し、その確認を行う。	1. 指標：当該年度における教授会での懇談（教員研究組織が「理念・目的」、「学術の進展や社会の要請」と適合しているかについて）の有無 評価基準：実施した…評価A、実施しなかった…評価D	A			
2. 毎年度、言語・文化、社会・ガバナンス、経済・経営領域に関する教授研究会を4回以上開催する。	2. 指標：当該年度における教授研究会の開催回数 評価基準：4回以上実施した…評価A、3回…評価B、2回…評価C、1回以下…評価D	A			
2011年度以降に設定した「目標」					
左記目標の「指標」					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目 4.0.1	4.0.1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。 (説明) 毎年度、教授会にて教員研究組織が「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」と適合しているかについて懇談し、その確認を行うことを目標とし、4月教授会にて実施した。
★ 小項目 4.0.2	4.0.2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。 (検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→→→→→→→ → ● 検証している ○ 検証していない (説明) 毎年度、言語・文化、社会・ガバナンス、経済・経営領域に関する教授研究会を4回以上開催することを目標とし、2010年度は5回の教授研究会を実施した。
その他	

《評価指標データ》

- 博士研究員（PD）の受入状況
- 日本学術振興会特別研究員（DC、PD）の受入人数
- 研究誌発行状況
- 提携大学との研究誌等の交流状況（送付・受入）
- 専任教員の発表論文数【基本的な指標データ】
- 学術賞の受賞状況【大学基礎データ】
- 学会誌・国際学会議事録等に掲載された学術研究論文件数
- 21世紀COEプログラムの採択状況
- 文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業の採択状況【基本的な基礎データ】
- 文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業採択状況【基本的な基礎データ】
- 特定プロジェクト研究センター制度の活用状況【基本的な基礎データ】
- 国際学会でのゲストスピーカーの延べ回数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	教授会で懇談することにより、構成員全員により学部の「理念・目的」「学術の進展や社会の要請」について確認することができた。
☆小項目4.0.2	教授研究会の実施により教員同士の研究分野を確認し、入門科目の授業に反映することができた。
その他	

↓

《次年度に向けた方策(1)》伸長させるための方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	教授会の懇談としては、理念・目的について教授会構成員が年度初めに確認することができた。ただし、その適切性についての議論があまり深まらなかったため、次年度は予め執行部で論点を整理した上で懇談を行う。
☆小項目4.0.2	教授会研究会にて発表する教員を全員で回すことにより、より教員相互の研究分野の理解を深める。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

↓

《次年度に向けた方策(2)》改善方策 注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目4.0.1	
☆小項目4.0.2	
その他	

◎自由記述

《点検・評価》&《次年度に向けた方策》

☆その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○教授会研究会等において、教育研究組織の適切性について、更に議論が深められることが期待されます。

【学内委員】

○小項目4.0.1の現状説明の内容は、小項目4.0.2での内容ではないでしょうか。小項目4.0.1は要素を絡めて、組織が相応しいことを説明されれば良いと思います。

○本項目に対する目標と評価指標を定め検証を定期的に行っていることを評価します。

【大学基準協会:評価に際し留意すべき事項】

○小項目4.0.1

基盤評価：なし

達成度評価：「教育研究組織が、当該大学、学部・研究科等の理念・目的を実現するためにふさわしいものである」

○小項目4.0.2

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、教育研究組織の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

○小項目4.0.1については、次回報告で次のとおり記載する。

本大学は、学校教育法及び教育基本法の規定するところに従い、広く知識を授けるとともに深く専門の学芸を教授研究し、キリスト教主義に基づいて人格を陶冶することを目的としている。これを踏まえ、国際学部は、「国際性の涵養」を教育・研究上の理念とし、その理念を達成するために、「国際事情に関する課題の理解と分析」を教育・研究上の目的とする。その目的の達成を通じて、「国際性」（世界理解、国際理解のための能力）と「人間性」を備えた世界市民として、国際的なビジネス・市民社会で活躍できる人材を養成する。「国際事情に関する課題の理解と分析」という教育・研究上の目的は、学生が高い外国語能力を習得し、世界の各地域を様々な角度（特に人文・社会科学の観点）から理解し、分析できるようになることである。本学部の特色は、タテの学問領域（文化・言語、社会・ガバナンス、経済・経営）に含まれる複数のディシプリン間の相乗効果を用い、ヨコの地域別研究コース（北米研究、アジア研究）を「学際的に」教育・研究し、それによって柔軟で、幅広い視野に立った世界理解、国際理解を図るところにあり、その教育・研究全体を「国際学」と位置づける。本学部は以上のことを実現できる適切な教育研究組織を構成している。

○現在記述の4.0.1の内容は4.0.2へ追加する。